

お元気ですか

南 恵子

です

ニュースを読んでご
意見をお寄せ下さい。

区議会議員

南 恵子

TEL 3790-1523



発行責任者 **日本共産党品川区議会議員 南 恵子** 八潮5-12-65-503

メールアドレス **minami@jcp-shinagawa.com**

定住化促進

子育て世帯に家賃助成せよ

3月の予算委員会で求める

八潮のまちを歩いていて強く思うのは、UR賃貸住宅に空室が多くあることです。南は3月の予算委員会で、家賃助成をして子育て世帯を八潮に呼び込んで暮らせる手立てをとるよう質問しました。紹介します。

**区は定住促進の支援が必
要と認識している**

予算委員会で、家賃助成の制度を求めた背景には、「品川区人口ビジョン（品川区が昨年作成）」で、「定住促進に向けた支援策に取り組む必要がある」という認識を持っていることがわかったからです。このビジョンは、品川区の人口動向をはじめ、人口推計や将来展望などを検討し、まとめたものです。

南は、このビジョンに報告されている子育て世代に取ったアンケート結果を見て、家

賃助成は欠かせない願いであることを改めて痛感しました。紹介すると、

**質問・理想の子どもの数を
実現するのが難しい理由は？**

① 出産・子育て・教育にお金がかかりすぎる 60・8%
② 高年齢で子どもを産むことに不安感や負担感がある 29・9%

③ 保育施設の受入体制が十分である 26・8%

④ 子どもを育てるには住宅が狭い 22・7%

と、住宅問題が出てきました。「狭い」をどう捉えるのか。

品川区人口ビジョン素案（案）

（中略）

② 多様な世代の定住性の向上
① 子育て世帯の定住促進

品川区において、少子高齢化の進展を緩やかにするためには、転入してきた若年者が子育て世帯として品川区に定着し、品川区で安心して子どもを生み育てられる環境を整備することにより、子育て世帯の定住促進に向けた支援に取り組む必要があります。

「広い住宅では家賃が高くなる」という問題につながる・・・そうすると、家賃助成は必要と考えましたが、うがっているでしょうか。

質問・理想の子どもの数を実現するために、今後、品川区が取り組むべき点は？

- ① 保育施設など子育て支援の施設が充実する55・7% 49・5%
- ② 出産・子育てに対する経済的支援が充実する
- ③ 十分な広さの住宅に負担可能な価格・家賃で住むことができる36・1%

という調査結果です。

少子高齢化の克服は重要な課題

将来推計では、「一貫して減少傾向にあり、10年後の平成37年までにはすべての推計パターンで自然減となります。」と記述してあります。今のうちから減少に歯止め

をかける必要があります。

若者の定住促進をはかり、住み続けてもらうために思い切った家賃助成制度をつくるよう求めました。

区の答弁は「様々な方策の検討を深める」とどまりましたが、家賃助成を否定しませんでした。

他区はすでに実施

他区ですでに実施している家賃助成制度を各区のホームページから抜粋して紹介しま

す。目黒区は、民間賃貸住宅に居住する、18歳未満の子を扶養する世帯に対して家賃の一部を助成することにより、居住の継続と子育ての支援を行うことを目的としています。

新宿区は、区の内外から区内の民間賃貸住宅に移り住む子育て世帯の費用負担等を軽減することにより、居住環境の改善と区内居住継続を図ることを目的としています。



何でも相談会
6月8日 (水)
午後6時半～
南恵子事務所
 気軽にご相談ください
 連絡は (3790) 1523

八潮で安心して子育てできるよう全力

南は、昨年2月の代表質問で家賃助成問題を取り上げました。

他の地域にはない豊かな子育て環境がある八潮に子育て世代を呼び込んで、世代バランスのとれた街にするという提案です。また、八潮のUR賃貸住宅は平均で70㎡程度、子育て世代に住みやすい広さで

すが、家賃が高いため家賃補助をすることなど求めました。引き続き取り組んでいきます。みなさんの貴重なご意見を聞かせてください。

